

今回のスマートインターチェンジ・周辺整備事業への期待がうかがわれるところである。

◎令和6年度白石市一般会計 予算

〔質疑〕令和6年度の予算編成に当たっての所感を伺う。

〔答弁〕人口減少、少子高齢化に加え、物価高騰の影響等により厳しい財政状況であるが、「選ばれるまち白石」として発展していけるよう、目先のことだけではなく、10年、20年後のまちを見据えた政策を打っていくことが重要と考え予算編成を行なった。

令和6年度は、本市の重要施策であるスマートインターチェンジと周辺施設の整備が本格的にスタートする。

教育環境の整備や学校教育の充実では、1人1台端末によるA-ICTを活用するなど、個別最適な学びの充実を図っていく。

このほか、昨年4月から市立病院となった公立刈田綜合病院や、学びの多様化学校「白石きぼつ学園」が2年目を迎えることから、今後の安定的な事業運営に大事

な年になると考えている。

〔質疑〕公立刈田綜合病院への財政負担について、所感を伺う。

〔答弁〕公立刈田綜合病院は、これまで構成市町村からの多額の繰入金を前提とした経営を行なっていたことから、赤字が出た場合は、1市2町で負担をしていた。

令和6年度の一般会計予算の総額だけを前年度と比較するとあまり変化はないが、指定管理者制度を導入したことで赤字補填の不安がなくなり、財政運営の不安要因が少なくなったことは、今後の本市の財政運営にとって、非常に明るい見通しであると受け止めている。

〔質疑〕将来、安定した財源の確保と健全な予算編成を行うために、どのような体制・方策が必要と考えるか伺う。

〔答弁〕持続可能な財政運営のためには自主財源の確保が大切であると考えており、市税の収納率アップに取り組みほか、ふるさと納税寄付金の推進を図っている。

また、令和5年度からは仙台南部工業団地への企業誘致も積極的に推進し、雇用創出などにより、新たな収入確保策に取り組んでいる。

また、病院において指定管理者制度を導入した運営に切り替えたいように、民間の力を最大限活用していくことは大変重要であると考えている。

〔質疑〕自治会や市民からの要望をどのように反映されたのか。予算化された事業等について伺う。

〔答弁〕市の各種事業には、社会情勢を勘案し、市民サービスを提供しているものも多数ある。その一つとして、住民票や各種証明書の発行が令和5年10月からマイナンバーカードを使用したオンライン申請が可能となった。

また、令和6年度当初予算には、令和7年度からの子ども医療費

助成の対象年齢を高校生まで引き上げるための準備経費を計上しているところである。

このほか、自治会や市民の要望全てに対応することは困難であるが、担当職員が現地を確認、安全性等を考慮し予算配分しており、令和6年度当初予算には、道路新設改良費、地方道路整備事業費、河川費の各種工事請負費などを計上している。

◎令和6年度白石市病院事業 会計予算

〔質疑〕指定管理2年目を迎えた公立刈田綜合病院の経営内容について伺う。

〔答弁〕地域になくはならない医療機関であり続けるため、令和6年度からは「公立刈田綜合病院経営強化プラン」に基づき事業を推進していく。

経営強化プランでは、「救急医療の取り組みの継続」「回復期医療の強化」「骨折や脊椎等の整形外科手術の実施」「周産期医療提供体制の構築」など、仙南医療圏

での病床機能の強化に取り組むこととしている。

さらに、指定管理者において、看護師等の医療従事者の確保・育成を実施し、現在休床している病床の再開をすることで経営の安定化を図っていく。

今後も毎月「管理運営協議会」を開催し、指定管理者と市がしっかりと連携しながら、市民が安心できる、持続可能な医療提供体制を構築し、地域医療を支えていきたいと考えている。



70th ANNIVERSARY